

I 前の節とのつながり。

前節「キリストを恐れ尊んで、互いに従いなさい」：21の实践面→5：22-6：9。

主を信じ「神との関係（御霊に満たされる）」に入れられた私達が、主の喜ばれる「人との関係」を持つ為に最も重要な姿勢は→自分達の罪の為に死に、よみがえられた愛溢れる偉大な神「主を恐れ尊んで互いに従う（へりくだって互いに仕え合う）」：21事。これなくして、主の喜ばれる人間関係は保てない。

仕え合うのではなく、支配しようとする時、関係が悪化する。「御霊に満たされなさい」：18とつながっている21節という土台となる御言葉が、夫婦、親子の関係（家庭生活）、主人と仕える立場の人間関係（職場での生活）につながっているという事は、私達が信じて仕えている生ける主は、私達の生活の全領域の主、支配者、救い主であることを示す。

生ける主が、共におられない領域や主が影響を及ぼさない領域は、私達の生活にはない。

それゆえに、5：22-6：9は、ただの人間関係の事ではなく、主のことが繰り返して来る。

何回、主、キリスト、ご自身、神と出て来るか見てみよう。約20回出て来る。

日曜の礼拝の時だけの主ではない。家庭生活、社会生活の中でも、試練の中でも主は、私達と共にいて下さる。

「あなたは、わたしのしもべ。わたしはあなたを選んで、捨てなかった。」恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強め、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る」（イザヤ41：9，10）。

II 「妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい」：22。

1. 「主に従うように」。

まず主に愛されている事、主の恵みを感謝したい。そして、この素晴らしい主に従って行く。その主の御命令は、「わたしが与えたあなたの夫に従いなさい、仕えなさい」。

自分の夫に仕える事は、主に従う事の一部、内実。自分の夫に仕える事が、実は主にお仕えする事。大切な決断をする時、夫に相談し、共に祈り、主に伺う。

※夫の願いと主の願いがぶつかる時は、主に従う。夫も、自分の妻を愛する事が主を愛する事。

「自分の夫に」。

よその夫にではなく（よその人には親切？自分の夫、妻には不親切？）神が与えられた自分の夫を愛し仕える（夫も、よその女性をではなく、主が与えられた自分の妻を愛する）敬い、夫を立て励ます。夫も妻につらく当たらない。男性である夫は、女性である妻から尊敬され、褒められる時、近づけられ、女性である妻は、男性である夫から愛される（良く話を聞いてもらい、気持ちを受け留められる）時、カづけられる。：33。

III 従うべき理由。

「なぜなら、キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです」：23。

ここでも、ただの人間関係ではなく、キリストが夫と妻の「間に」おられる。結婚は、キリストと教会の関係を現わす。

#### 1. 「キリストは教会のかしら」。

①キリストは、教会が成長し成熟するのに必要な栄養の供給源。

②キリストが教会をリードし、導き、まとめ上げ、完成される。4：16。

#### 2. 「ご自身がそのからだの救い主」。

キリストは、ご自身のからだである教会の救い主。世話をし保つ方。感謝します。

#### 3. 「夫は妻のかしらであるからです」。

結婚は人間が始めたものではなく、神が始められた神聖なもの。結婚か独身か、人それぞれの生き方がある。

「ひとりひとり神から与えられたそれぞれの賜物を持っているので、人それぞれに行き方がありません」(Iコリント7：7)。

人と比べる必要はない。神から与えられた人生を主と共に歩む。

「かしら」は、優劣ではなく、神の秩序、神が与えられた役割の違い。

夫は、かしらとしてリードし妻を守り、養う責任を与えられている。

妻は夫の奴隷ではなく、助け手(創世記2：18)。妻は夫の欠けを補い(違いがある人との結婚)、助け、共に神の栄光を現わし生きる。

結婚前も後も神に造られた男性と女性の違い(体、精神、興味、疲れた時の現れ)、お互いの違い(育ち、好み等)を知って理解し合う。

#### 4. 「であられるように」夫も。

「かしら」(リーダーシップ)も「救い主」(妻を養い保つ、守るという意味で)も、夫に期待されている。夫は妻に「私に従いなさい」と言う前に、まず自分自身が、主から愛されているように妻を愛し、「かしら」として正しくリードし、決断をする。妻に決断を任せ、うまくいかないと責めるという責任転嫁をしない。

「すべての男のかしらはキリストであり」Iコリント11：3。

夫は、自分のかしらである主を恐れ尊んで、妻の意見も聞き相談し、主に祈って決断する。

妻も夫から、かしらとしての役割、責任を奪わない。夫を立てず、夫に相談せず、事を行わない。エバの過ち=創世記3：6。

夫に相談せず、悪魔の誘惑に負け、神に背いた。夫も、「それはいけない」と、かしらの責任、リーダーシップを発揮しなかった。夫は、妻を養い守るという責任を果たして行く。その時、妻は夫を敬い従う。

ノンクリスチャンの夫にも仕える。神が最も喜ばれる礼拝を守る事を許してもらおう。

「自分の夫に服従しなさい。たとい、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまい(愛と真実な行為)によって、神のものとされるようになるためです」Iペテロ3：1。

※すべての人間関係の秘訣=私達が、主を恐れ尊んで互いに従い仕え合おうとする時、大切な事は、相手がやってくれたら、やってあげようではなく、まず自分自身が先に自分の分を、まず先に愛して下さった主に頼って果たして行く。御言葉を相手だけに当てはめない。そして、偽り、仮面ではなく、正直に語り合い、聞き合い、理解し合う努力を止めない事です。